

## 2018年度 後期授業評価アンケート 顕彰科目担当教員コメント

教員名	藤田緑郎（非常勤講師）
顕彰科目名	相談援助演習Ⅲ6（通年）
<p>●授業運営において工夫されている点</p> <p>1. 一分間スピーチ</p> <p>授業の冒頭に、学生、教員が1人ずつ、この一週間に起こったこと、今関心をもっていること、感動した本や映画のことなどを、みんなの前で約1分間スピーチする。聞き手からの質問や感想は求めない。ただ静かに聴く。進行は教員が行う。どうしてもスピーチしたくない、できない場合はしなくても良い。「一分間スピーチ」のねらいは2つ。1つは、人前で話すこと、他人の話を聞くことの練習です。もう1つは、これから始まる演習にリラックスして参加するためのフォーミングアップです。</p> <p>2. N式（野中式）事例検討会</p> <p>「N式事例検討」は、従来のハーバード方式のように、詳細な事例シートを作成せず、簡単な事例概要とジェノグラム・エコマップだけを用いる事例検討です。詳細な事例シートをまとめるのは、発表者にとって大きな負担ですし、参加者は下を向いてシートを見たままで、発表者の顔や表情も見ません。発表者と参加者のコミュニケーションが不十分になり、事例の考察が深まらない恐れがあります。</p> <p>「N式」では、事例理解の手掛かりは3, 4行の事例概要とジェノグラム・エコマップだけです。事例を把握するためには、発表者に注目し、他人の質問を聞き、自ら質問をしていくしかありません。積極的に参加し、質疑応答を活発にすることが事例検討の成否を決めます。参加者には質問する力、想像力を発揮しながらアセスメントしていく力が問われます。発表者には、多様な質問に答える力が求められ、事例に関して知っていることと知らないことが明確になり、利用者理解が進みます。そして、いかに利用者のことを知らなかったかを痛感します。</p> <p>ある程度、利用者のイメージが共有できたところで、発表者が具体的に、今日何を検討したいかを提起します。ここから、5、6人のグループに分かれディスカッションします。そして、検討内容を発表し、事例発表者と教員がそれぞれコメントし、終了します。</p> <p>事例は、実習で関わった利用者であったり、学生の友人・家族であったりさまざまです。個人情報保護のため事例概要の氏名等はイニシャル表記にし、配布物は事後回収しています。</p> <p>この「N式事例検討」のねらいは、90分黙って下を向いて終わらないこと、前を向いて自分なりに検討の輪に入って参加する姿勢の獲得です。</p> <p>●今後取り組んでいこうと考えておられることなど</p> <p>「1分間スピーチ」は続けたいと考えています。「N式事例検討」終了後は、「現代の福祉を考える」というテーマで、プレゼンテーションとグループディスカッションを行いたいと考えています。これは、新聞・テレビ等のマスコミで話題になっている現代の具体的な社会福祉の事象や問題を、学生が2人1組になって取り上げ、資料を作って、分かりやすく問題提起をし、グループで検討していくものです。この学習のねらいは、「問題の背景は何か」ということと「どうしたら解決できるか」という観点を養うことです。</p>	